

高校国語 専門問題例

例一 次の文章を読んで、(1)～(6)の問いに答えなさい。(設問の都合上、表記を改めた箇所がある。)

(本文省略)

- (1) 波線部ア～エのカタカナを漢字に直して書きなさい。
点線部「激しい競争を経験してきた」を例にならって単語に分けなさい。
(例) 雨ーがーやみー雲間ーからー光ーがーさす。
(2) 二重傍線部「解放」の対義語を漢字二字で答えなさい。
(3) 傍線部A「量的なエネルギーの大きさという面と、ベクトルの多様さという質的な面」とあるが、「量的な面」と「質的な面」とはどういうことか。それぞれ三十以上四十字以内で答えなさい。
(4) 傍線部B「ふるさととは他人との『つながり』による満足を約束するはずである」とあるが、その理由を八十以上九十字以内で答えなさい。
(5) 筆者は本文において、「新しいふるさと」とはどういうものだと言っているか。八十以上九十字以内で答えなさい。

(令和三年度)

例二 次の文章は、作者の子が賭弓のりゆみ（宮中で行われる弓の競技）の射手に選ばれたことに関する内容が書かれている。これを読んで、(1)～(7)の問いに答えなさい。

人は、めでたく造りかかやかしつるところに、明日なむ、今宵なむと、ののしるなれど、われは、^A思ひしもしるく、かくてもあれかしになりたるなめり。されば、げに懲りにしかばなど、思ひのべてあるほどに、三月十日のほどに、内裏の賭弓のことありて、いみじくいとなむなり。幼き人、しりへの方にとられて出でにたり。「方勝つものならば、その方の舞もすべし」とあれば、このごろは、よろづ忘れて、このことを急ぐ。舞ならずとて、日々に樂をしののしる。出居につきて、賭物とりてまかでたり。^Bいとゆゆしとぞうち見る。

十日の日になりぬ。今日ぞ、ここにて試樂のやうなることする。舞の師、^C多好茂おほのよしもち、女房よりあまたの物かづく。男方も、ありとあるかぎり脱ぐ。「殿は御^D物忌なり」とて、をのこどもはさながら来たり。事果てがたになる夕暮に、好茂、胡蝶楽舞ひて出で来たるに、黄なる^E単衣脱ぎてかづけたる人あり。折にあひたるここちす。また十二日、「しりへの方人さながら集まりて舞はすべし。ここには弓場なくて悪しかりぬべし」とて、^Fかしこにののしる。「殿上人数を多くつくして集まりて、好茂埋もれてなむ」と聞く。われはいかにいかにと^Gうしろめたく思ふに、夜更けて、送り人あまたなどしてもものしたり。さて、とばかりありて、人々あやしと思ふに、はひ入りて、「これがいとらうたく舞ひつること語りになむものしつる。みな人の泣きあはれがりつること。明日明後日、物忌、いかにおぼつかなからむ。五日の日、まだしきに渡りて、こどもはすべし」など言ひて、帰られぬれば、^H常はゆかぬここちも、あはれにうれしうおぼゆることかぎりなし。

(『蜻蛉日記』より。)

(注)「人」＝作者の夫。(この時、夫は新邸を造営したばかりであった。)

「しりへ」＝(弓の競技の)後手組。 「出居」＝練習場。

「五日の日」＝十五日。(この日に賭弓が催されることとなった。)

- (2)(1) 二重傍線部 a・b の漢字の読みを、それぞれ現代仮名遣いで答えなさい。
次の文は、波線部「なめり」について説明したものである。空欄にあてはまる言葉を答えなさい。

「なめり」は断定の助動詞の①形に②の助動詞の終止形が接続した「なるめり」の撥音便「③」の撥音が無表記となったものである。

傍線部 A・B を、それぞれ現代語訳しなさい。

- (4)(3) 傍線部 C について、「かしこ」の指す内容を明らかにして、現代語訳しなさい。

傍線部 D とあるが、何に対してそう思っていたのか、「ということ」に続く形で、二十字以内で説明しなさい。

- (6) 傍線部 E について、その理由を三十五字以上四十文字以内で説明しなさい。

- (7) 次のア、エを、成立した年代の古いものから順に並べ、記号で答えなさい。

ア 蜻蛉日記 イ 十六夜日記 ウ 土佐日記 エ 更級日記

(令和三年度)

例三 次の文章を読んで、(1)～(6)の問いに答えなさい。(設問の都合上、表記を改めた箇所がある。)

荀巨伯、遠看友人疾、值胡賊攻郡。友人語巨伯曰、吾、今死矣。子、可去。巨伯曰、遠来相視、子令吾去。

敗義以求生、豈荀巨伯所行邪。賊既至、謂巨伯曰、大

軍至、一郡尽空、汝、何男子而敢独止。巨伯曰、友人

有疾、不忍委之。寧以我身代友人命。賊相谓曰、我

輩無義之人、而入之。遂班軍而還。一郡並

獲全。

(『世説新語』より。)

(注)「荀巨伯」＝河南省の人。後漢桓帝のころの人。

「胡賊」＝北方の異民族。

「相視」＝会って安否を確かめること。

「班軍」＝軍隊を引き返すこと。

- (1) 波線部①～③の漢字の読みを送り仮名も含めて現代仮名遣いで書きなさい。
(2) 傍線部 A をすべてひらがなで書き下し、現代語訳もしなさい。
(3) 傍線部 B を「所行」の内容を具体的に示して現代語訳しなさい。
(4) 傍線部 C とは対照的な部分を抜き出ささい。ただし、訓点は含まない。
(5) 本文中の□に入る最も適切な語を、漢字二字で書きなさい。

- (6) 傍線部Dとあるが、このような結末に至ったのはなぜか。本文の内容を踏まえて二十
五字以上三十五字以内で説明しなさい。

(令和二年度)

例四 高等学校学習指導要領「第2章 各学科に共通する各教科」「第1節 国語」の内
容について、(1)～(3)に答えなさい。

- (1) 次の文は、「第1款 目標」の一部である。文章中の①～⑥にあてはまる語
句を答えなさい。

(2) 生涯にわたる①における②との関わりの中で③を高め、思考力や
想像力を伸ばす。

(3) 言葉のもつ④への認識を深めるとともに、言語感覚を⑤、我が国の言
語文化の⑥としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向
上を図る態度を養う。

- (2) 次の文は、「第2款 各科目」「第1 現代の国語」「2 内容」「知識及び技能」の
一部である。文章中の①～④にあてはまる語句を答えなさい。

(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることがで
きるよう指導する。

ア 主張と①など情報と情報との関係について理解すること。

イ 個別の情報と②された情報との関係について理解すること。

ウ ③の仕方を理解し使うこと。

エ 情報の④や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。

- (3) 次の文は、「第2款 各科目」「第2 言語文化」「2 内容」「思考力、判断力、表
現力等」の「B 読むこと」の一部である。①～⑤にあてはまる語句を後の a
～j から選び、記号で答えなさい。

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 文章の①を踏まえて、内容や構成、展開などについて②を基に的確
に捉えること。

ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について③すること。

エ 作品や文章の成立した④や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈
を深めること。

オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我
が国の言語文化について自分の⑤をもつこと。

f	a
理解	思い
g	b
評価	考え
h	c
吟味	叙述
i	d
背景	過程
j	e
種類	描写

(令和二年度)

例五 次の文章を読んで、(1)～(7)の問いに答えなさい。(設問の都合上、表記を改めた箇所がある。)

北山の辺に^Aよしある所のありしを、はかなくなりし人の領ずる所にて、花の盛り、秋の野辺など見には、常に通ひしかば、誰も見し折もありしを、ある聖の物になりてと聞きしを、^Bゆかりあることありしかば、せめてのことに、忍びて渡りて見れば、面影は先立ちて、また^Cかき暗さるるさまぞ、言ふ方なき。磨きつくろはれし庭も、浅茅が原、蓬が杣になりて、葎も苔も茂りつつ、ありしけしきにもあらぬに、植ゑし小萩は茂りあひて、北南の庭に乱れ伏したり。藤袴うちかをりを、ひとむらすすきも、まことに虫の音繁き野辺と見えしに、車寄せて下りし妻戸のもとにて、ただひとり^Dながむるに、さまざま思ひ出づることなど、言ふもなかなかなり。例のものも覚えぬやうにかき乱る心の内ながら、

^E露消えしあとは野原となりはててありしにも似ず荒れはてにけり

跡をだに形見に見むと思ひしをさてしものとかなしさぞ添ふ

東の庭に、柳桜の同じ丈なるを交ぜて、あまた植ゑ並べたりしを、ひととせの春、もろともに見しことも、ただ今の心地するに、梢ばかりは、さながらあるも、心憂く悲しくて、

^F植ゑて見し人はかれぬるあとになほ残る梢を見るも露けし

わが身もし春まであらば尋ね見む花もその世のこと()忘れそ

(注)「はかなくなりし人」＝この人と作者とは恋愛関係にあった。
(『建礼門院右京大夫集』より。)

(1) 傍線部 A・D の意味をそれぞれ答えなさい。

(2) 傍線部 B を、その相手を補って現代語訳しなさい。

(3) 傍線部 C とはどのような様子か。その理由も明らかにして五十字以上六十字以内で説明しなさい。

(4) 傍線部 E について、次の a・b に答えなさい。

a ここで用いられている和歌の技巧を説明しなさい。

b 「ありし」を簡潔に言い表している箇所を九字で抜き出しなさい。

(5) 傍線部 F を現代語訳しなさい。

(6) () にあてはまる副詞を答えなさい。

(7) 「建礼門院右京大夫集」と成立した時代が同じである作品を、次のア～エから二つ選

び、記号で答えなさい。

ア 十六夜日記

イ 和漢朗詠集

ウ 風姿花伝

エ 発心集

(令和元年度)

例六 次の文章を読んで、(1)～(6)の問いに答えなさい。(設問の都合上、表記を改めた箇所がある。)

伝^ニ曰^フ、賞^ヲ疑^{ハシキハ}從^フ与^{フルニ}所^ニ以^テ広^{ムル}恩^ヲ也。罰^ヲ疑^{ハシキハ}從^フ去^{ルニ}所^ニ以^テ慎^ム

刑^ヲ也。当^{リテ}二^ニ堯^{ガウ}之^ニ時^ニ、皐^{カウ}陶^{エウ}為^ル士^ト。将^レ殺^ス人^ヲ。皐^{カウ}陶^{エウ}曰^フ、殺^{サント}之^ヲ三^{タビ}、

堯^{フコト}曰^フ、宥^{ユル}之^ヲ三^{タビナリキ}。故^ニ天下^ニ畏^レ皐^{カウ}陶^{エウ}。執^ル法^ヲ之^ヲ堅^{キヲ}、而^{シテ}樂^{シメリガ}堯^ニ

用^{フル}刑^ヲ之^一寬^{ナルヲ}。四^ニ岳^ヲ曰^ク、鯀^{こん}可^シ用^フ。堯^ニ曰^ク、不^{ナリ}可^シ鯀^ヲ。方^{ほう}命^ヲ圯^{やぶ}族^ヲ。
 既^{ニシテ}而^{シテ}曰^ク、試^ミ之^ヲ。何^ニ堯^ノ之^一不^{シテ}聽^カ。皐^ニ陶^ノ之^一殺^{サントスルヲ}人^ヲ、而^ニ從^{ヘル}四^ニ岳^ヲ。
 之^ニ用^{ヒントスルニ}鯀^ヲ也。然^{ラバ}則^①聖^ニ人^ノ之^一意^ニ、蓋^②亦^シ可^シ見^ル矣。書^ニ曰^ク、罪^ノ、
 疑^{ハシキハレ}惟^{クセヨ}輕^{クセヨ}功^ノ疑^{ハシキハレ}惟^{クセヨ}重^{クセヨ}。与^③其^ノ殺^{サン}不^ム辜^ニ、寧^ロ失^{セヨトム}不^ム經^ニ。嗚^③呼^ヲ。
 尽^{セリ}之^ヲ矣。可^ク以^テ賞^ス、可^シ以^テ無^{カル}賞^{スル}。賞^{スレバ}之^ヲ過^グ乎^ニ仁^ニ。可^ク以^テ罰^ス、可^シ以^テ無^{カル}罰^{スル}。罰^{スレバ}之^ヲ過^グ乎^ニ義^ニ。
 則^チ流^{レテ}而^ニ入^ル於^ニ忍^{にん}人^{じん}。故^ニ仁^ハ可^レ過^グ也、義^ハ不^レ可^レ過^グ也。

(『続文章軌範』より。)

(注)「伝」||古い書物。

「土」||裁判官。

「方命」||命令を放置すること。

「不辜」||無実の人。

「堯之時」||堯帝の時代。

「四岳」||四方の諸侯。

「圯族」||善人を害する。

「失不經」||法に従わないこと。

「皐陶」||帝の臣下。

「鯀」||人名。

「書」||「書経」。

「忍人」||残忍な人。

- (1) 波線部①〜③の漢字の読みを送り仮名も含めて現代仮名遣いで書きなさい。
- (2) 傍線部Aを書き下し、現代語訳もしなさい。
- (3) 傍線部Bは誰をどうすることか。十字以内で答えなさい。
- (4) 傍線部Cを現代語訳しなさい。
- (5) 傍線部Dが表す内容とほぼ同意の部分本文の中から漢字二字で抜き出しなさい。
- (6) 傍線部Eとあるが、「仁」は過ぎててもよいが「義」は過ぎてはいけないという理由を、「仁」と「義」を対比しながら、四十字以上五十文字以内で説明しなさい。

(令和元年度)

問題番号										正 答 例																																																																																																																																																																																																																																					
例一										例二										例三										例四																																																																																																																																																																																																																	
(1)(2)(3)										(1)(2)(3)(4)(5)(6)										(1)(2)(3)(4)(5)(6)										(1)(2)(3)																																																																																																																																																																																																																	
ア 顕著 イ 寿命 ウ 模索 エ 富裕										拘束、束縛										量的な面										質的な面										ふるさととの維持には、人とのつながりをつくり出す行動を積み重ねる長い時間が必要であるが、そのぶんつながりが信じられるものとなり、生涯にわたる幸福を与えてくれるものとなるから。										ふるさとが外に開かれ他の地域に住む人びとと結びつくという観点と、ふるさとという意識と一体感を持つ人びとの内なる活動という観点の二つが、相互に働きあつて形づくられるふるさとのこと。										a ものいみ										① 連体(形) ② 推量 ③ なんめり										A 思ったとおり										B たいそうすばらしい										夫の家で大騒ぎする。										わが子が無事に舞うことができたかどうか(というこ)										わが子の立派に舞った姿を夫がたいそう誇らしく感じていることがわかったから。										ウ ↓ ア ↓ エ ↓ イ										① ベシ ② ことごとく ③ むしろ										書き下し文 現代語訳 あなたはわたしに逃げさせようとする。 どうして荷巨伯は友人を見捨てて自分が生き延びる行いをしようか。 いやしない。(大軍至) 一郡尽空										有義										友人思いの荷巨伯の言動に賊たちが感心し、攻撃するのをやめたから。										社会生活 ② 他者 ③ 伝え合う力										価値 ⑤ 磨き ⑥ 担い手 ⑦ 推論										妥当性										④ j ② c ③ g ④ i ⑤ b										① ④										(3) (2) (1)									

例六							例五							問題番号			
(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)					
「仁」が過ぎても君子とすることに問題はないが、「義」が過ぎると残忍な人になってしまうから。	罰疑（「罪疑」も可）	無実の人を殺すよりは、法に従わない方がよい、と。	鯨を登用すること。	現代語訳	今にも人を殺そうとした。	ア、エ	な	植えて觀賞した人は亡くなってしまったそのあとに、依然として残る梢を見るにつけても、涙が誘われる。	磨きつくろはれし庭	a	亡くなった恋人と過ごした思い出の場所を訪ねたので、恋人の面影が目の前に浮かび、涙で目の前が見えなくなってしまう様子。	D	A				
				すなわち						②		けだし		③	ああ	物思いに沈んでぼんやりと見る	風情のある
				書き下し						将に人を殺さんとす。							